

アカエリマキキツネザルへの給与に適したペレットの比較検討

小島 里佳

(横浜市立野毛山動物園)

キツネザル類は他の霊長類と比較して体内に鉄を蓄積しやすいことが知られており、飼育下における病理診断では、頻繁に鉄過剰症(ISC)の所見が確認されている。当園で飼育しているアカエリマキキツネザルにおいても、過去の病理診断にて鉄過剰状態(ISC)が疑われる所見が認められた。従来給与していたペレット(Mazuri Leaf-Eater Primate Diet Mini-Biscuit (5672))は鉄含有量が高いことから、飼料から ISC 予防へアプローチすることを目的として試験的に給与を中止したところ、飼育個体 1 頭においてミネラルおよびビタミン欠乏の所見が認められた。そのためペレットの給与を再開するとともに、鉄を蓄積しやすいキツネザル類に適したペレットの選定を目的として、当園で入手可能な Mazuri Leaf-Eater Primate Diet Mini-Biscuit (5672)、Mazuri Primate Browse Biscuit (5MA4)、Mazuri Primate LS Biscuit (5M1G) の 3 種について、栄養組成・成分含有量および嗜好性の観点から比較検討した。

栄養組成および成分含有量の評価では、野生下における食餌内容およびキツネザル専用ペレット(Specialty Feeds Lemur Diet)と比較した結果、5M1G が最も適しており、5MA4 も適用可能と考えられた。5672 は他の 2 種に比べて鉄含有量が著しく高く、その他の項目についても他の 2 種と比較して特筆すべき利点は認められなかった。嗜好性試験では、当園で飼育しているアカエリマキキツネザル 3 群を対象に、各ペレットを同時に同量給与し、採食状況および完食までの時間を比較した。その結果、5MA4 で最も高い嗜好性が確認され、5M1G についても一定の嗜好性が確認された。一方、5672 は他の 2 種と比較して嗜好性が著しく低かった。

以上の結果から、5MA4 および 5M1G はいずれもアカエリマキキツネザルへの給与に適すると判断した。最終的には、鉄含有量の低さおよびペレット形状の扱いやすさを考慮し、当園で使用するペレットとして 5M1G を選択した。